

第2回ふれあい懇談会懇談要旨

- 開催日時 平成28年11月20日（日） 14時～16時
- 開催場所 我孫子南近隣センター
- 参加者 17名
- 出席者 星野市長、日暮総務部長、大畑企画財政部長、四家市民生活部長
渡辺環境経済部長、大谷建設部長、他13名

■懇談要旨

市民：自主防災組織への支援です。国道6号線の天子山の隧道がある場所で、ひったくりがありましたので、防犯カメラの設置をお願いしたいです。つくし野南自治会の他につくし野西自治会、北自治会、東自治会、中央自治会等で、既に我孫子市に申請しておりますが、市の方からの返答がありません。こちらもすぐ設置できると思っておりますが、現状をおしえていただき、いつぐらいに設置してくれるのかも回答していただきたいと思っております。

2点目として、市民会館の件です。建設の計画は聞いておりますが、具体的にいつぐらいに建設をするのか、また、しないのか、教えていただきたい。

市民生活部長：防犯カメラの件について、お答えいたします。つくし野南自治会や近隣の市民の皆様から要望書はいただいております、内容はしっかりと把握しております。

防犯カメラの設置については、まずは各JRの駅の南北の駅前を中心に、公共の防犯カメラということで、早めに設置していく考えです。今現在、千葉県から補助金をいただいて、優先的に進めております。今年度は、各駅片方に設置していく予定です。来年度は、各駅のもう片方に設置していく考えでおります。その後は、駅以外の何処に設置するか、まだ具体的に検討しておりませんので、犯罪があったような所などの状況を踏まえまして、検討していく予定です。

今、我孫子市では、市が設置する分と、各自治会が自分達の自治会の安全を確保するためエリア内への防犯カメラの設置について、積極的に補助金の活用を促しております。1台あたり20万円を上限に補助金をつけさせていただいております。因みに、昨年度までに3自治会でも10台以上設置されていますし、今年度も3自治会で約10台の設置を予定しております。市の計画が幹線道路部分だけとなっておりますから、自治会内で積極的に設置したい場所がありましたら、我孫子市からの

補助金を活用して、設置していただきたいと思います。今回の要望書については、市としては受け止めております。市の事情を理解いただけない部分もあるかと思いますが、安全な街づくりを警察と一緒に進めていきますので、よろしくお願いしたいと思います。

なお、市としましては、監視される社会はどうか、また、あちらこちらに設置するのはいかがなものという考えもあります。そういったところは、防犯協議会や現場の防災、防犯関係の方々と協力しあって、安全な街づくりを進めてまいります。

市長：我孫子市でも優先順位をつけながら、犯罪多発地区、犯罪のおこりやすそうな地区から設置しているのですが、警察とも相談して優先順位をつけていかないと防犯カメラだらけの街になってしまいます。こういった状況を踏まえながら、警察の目からみて、ここは、犯罪が起こりそうであるとか、犯罪の抑止力にしようという場所を中心に設置している事をご理解いただきたいと思います。

市の財政状況もありますが、補助金を県から頂戴しながら、一緒に行っていくというスタンスをとっております。自治会が自ら半分は負担しようというところまでできておりますので、これについては、自治会の中でも特に合同ということであれば、設置しやすくなると思いますので、自治会内で協議していただければと思います。

2点目の市民会館についてですが、具体的に何時ということは決めておりません。

ただ、市民会館の設置をする時に、建物だけであればすぐ造ればいいのですが、私としては、賑わいづくりの拠点となるところであって、民間が資金を出しやすい場所が良いのではないかとということで、千葉銀総研に調査をお願いしました。市内7箇所を調査した中で、高野山新田、水の館周辺が、第1候補ということで調査報告がありました。この調査は、昨年7月に千葉県から水の館を無償で受け取る前のことでありますので、水の館の整備が進めば、もっと価値がある場所になると思われます。但し、そこに造るか、造らないかの議論についてですが、現在、我孫子市の財政状況の中で、優先順位が高いのは、ゴミの焼却場であると思います。50年近く経っていて、その中で毎年2億円を超える改修工事が行われていくという状況です。万が一、焼却が停止になると家庭ごみや飲食店から出るゴミが燃やせなくなり、回収も出来なくなりますので、まずは、焼却炉の新設について進めております。

市民会館については、多くの意見がございます。13万人の市で文化や芸術に関することが活発である所に市民会館がないということは、いかがなものかという声と、逆にこの厳しい財政状況の中で市民会館を建てるのはいかがかという声も頂いておりますので、整理をさせていただいて、どれぐらいの建設費用がかかるのか、どれぐらいの維持費がかかるのかということも含めて、ふれあい懇談会等で、皆様にお示しをしたいと考えております。

また、そういった場で、こちらが判断できるようなご意見も皆様から頂戴していきたいと考えております。

なお、市内の学校関係者と子供達を含めた文化関係者の皆様から市民会館を建ててほしいと強い要望をいただいております。恐らく、このような意見は、市民の半数を超えるのではないかと感じております。ただ、市民会館を使ったことがない人、使う必要がない活動をしている人は、建設の費用を他に使うべきだと言っている経緯が現実にあります。

特に東日本大震災の後、人件費と資材が高騰しており、3割ぐらい上がっているのではないかと聞いております。この状況で、焼却炉建設についても当初の予算よりも20から30億円ぐらい多く見積もらなければならないと思われまます。

また、東京オリンピックに向けて、更に人件費や資材の高騰があると思われる中で、焼却炉建設と市民会館建設の同時進行は難しい財政状況となってきております。

そして、土地の確保の部分も出来ていない中では、基金を積み立てている状態です。用地買収の後に建設を行うにあたり、用地買収が地権者の方の要望にあった代替地を確保するなど、時間が大変かかりますので、市民会館建設の時期は、ここではっきりとお答えする事はできませんが、私としては、建設するという前提で、皆様の意見を求めていこうと考えております。

市民：子ども議会は、平成13年から始まって、2年に1回開催されているということですが、もっと市民への広報活動を行っていただきたい。また、毎年開催をして子どもたちの頑張っている姿を市民にみてもらい、子どもと大人が意見交換を出来る場を多く作ってほしい。

私は、つくば市の音楽活動を見てきて、地元の人達が協力し合って、盛大に行われていると感じました。我孫子交響楽団を作りましょう。また、小さな子供からお年寄りまでの合唱団も作りましょう。

市長:子ども議会は、市長部局が主導です。以前は3年に1回の開催でしたけれども、子ども達の声聞いて、私が2年に1回としました。本当は毎年行いたかったのですが、学校現場が中々難しかったということです。当初、教育委員会では、子ども議会の報告書は文書で出しておりましたが、議会と同じようにインターネットで動画を流し、DVDの画像で報告するようにはいたしました。子ども議会は、子ども達がいかに議会での質問の仕方や議事運営、そしてルールを覚えてもらうかという事が大事であり、それを大きな目標にしております。

また、その中で題材としているのが、市内の小中学生が、自分達の地域を考えて課題をどのように解決していくかということであり、子ども達自らが考えるということが大切です。現在、子ども議会は好評であり、傍聴席は、学校関係者やご家族の方でいっぱいになってしまい、入れなくなってきました。そのような状況をわかっていながら、これ以上のPRをすることは、いかがかと思えます。

DVD録画は、子ども達に来年の参考にしてもらおうと思っております。

私としても毎年開催したいと思っておりますが、学校現場としては、生徒たちにいろんな経験をさせたいという考えがありますので、そこをゴリ押ししたいとは思いません。2年に1回であれば、かなりの生徒が参加できます。

しかし、参加したいという子どもたちが、まだ多いのも事実ですので、そこは、子ども達の声優先させていきながら、学校現場に過度の負担がかからないよう、また学校行事に支障がないよう、調整して続けていきたいと思えます。あくまでも、子ども達の為に行っているということをご理解ください。

次につくば市の件ですが、前市長も今の市長もよく存じております。今のつくば市長は、よく小中一貫校について熱く語られており、私もそのお話を聞いて、小中一貫校やiPadの導入も含めて、我孫子の子ども達が自分の夢を実現できるように、そして、また中一ギャップのために不登校になってしまう子ども達が増えないようにということで、小中一貫教育を積極的に進めているところです。

また合わせて、文部科学省の方でも、小中一貫教育を進めていて、導入している学校は国内で千校を超えており、中学校になった時のギャップによる不登校の生徒がかなり減っていて、学力の向上にもなっているということから、文部科学省も推奨しています。市では、色々な形で我孫子の子ども達にあった教育を進めていきたいと思っております。

また、我孫子の子ども達は、音楽について熱心です。指導する先生方や地域の皆様方によって、非常にレベルが上がってきております。

そのような状況の中で、我孫子市内の学校の楽器が古くなってきていたので、3年前から吹奏楽部の楽器を更新するために1千万円ずつ予算をつけているのですが、まだまだ古いものがあります。これからも、楽器だけではなく情操教育や理科の実験備品等、学校現場の備品の更新は、どうしても必要になってくるだろうと思いますが、我孫子の子ども達の教育の向上と豊かな心が育まれるよう、そして、不登校の子ども達を減らすよう、全力を挙げていく考えです。そういう状況の中で我孫子の市民団体は活発で、市民フィル等、演奏する団体はたくさんあります。

合唱団も、大きな組織となっており、この団体の方々が、様々なイベントでどの曲を弾くのか、歌うのかは、市が決めることではありません。これだけ、活発に市民活動がされている中では、市民の皆様の自発的な行動を尊重すべきだろうと思っていますので、組織を作っていくようなことは必要ないと考えます。

市民：もう一点、私が言いたいのは、子ども達と大人たちとの意見交流がかけられているのではないかと考えています。高齢者と子ども達を結びつける事業を計画して行く事が必要です。

市長：我孫子市では、あびっこクラブを設置しておりまして、自分達が通っている小学校で、5時まで残って、図書を読む子、体育館で遊ぶ子ども達がおりますが、各あびっこクラブでは、子ども達にあびっこクラブでの過ごし方のメニューを提供しております。そのメニューを提供して下さる方は地域の高齢者の方々に、ご協力をいただいております。お花や茶道などいろいろな事を含めて、子ども達と高齢者がふれあう場所です。あびっこクラブが整備されていない学校は、あと2校となっております。あびっこクラブの良いところは、そこにボランティアでいろんな事を教えてくださる高齢者の方がいて、その方々からすると「子ども達から元気をもらえる。」「風邪をひいたら、子ども達に迷惑がかかるので、健康管理をしっかりしなければ。」など、喜ばしい言葉が返ってきます。私も、あびっこクラブに行くと、子ども達から「おじいちゃん、おばあちゃんに本を読んでもらった。」「昔の話をしてくれた。」など、かなり深く地域の高齢者と子ども達が交流を行っており、高齢者の皆様の今までの知識や経験を子ども達にわかりやすく教えてくれていると実感しています。

だからこそ、我孫子市内に11ある、あびっ子クラブの内、2校は文部科学大臣から表彰されたということです。常設型の、この我孫子市の放課後対策事業は非常に珍しく、文科省としても進めていきたいということで、各自治体が見学にきておりますので、もっと地域の方にご協力をいただきたいと考えております。

塾にいかなくても教えてもらえる事もあり、子ども達のメリットを益々増やしていければ良いと考えておりますので、ご質問あったような場所というのは、既にあるということをご理解ください。

なお、あびっ子クラブがない残り2校については、新木小学校は空き教室がないので、建設して来年3月にオープンをしようとしております。布佐小学校については、布佐は小中一貫教育を行っておりますので、同じ学区の布佐南小のあびっ子クラブが使用できるということで、子ども達は既に通っております

これからも、ボランティアの高齢者の募集を引き続き行い、高齢者の知識や経験を与えられる場として、そして子ども達がそれを理解して、今後生活に生かせる場所づくりを行ってまいります。

市民：遊歩道についてです。手賀大橋から竹下広場にかけての遊歩道ですが、樹木の根っこによって、隆起してデコボコになっています。去年は5～6カ所ぐらいあり、市に連絡をしたところ、修繕してくれましたが、今年は30数ヶ所ありマーキングしております。早急に対策をとっていただきたいと思います。もう1点は、竹下付近の遊歩道の近くに釣り堀があるのですが、釣り堀の先の所が猫の捨て場になっているようで、猫の溜まり場にもなっています。当然、市の公園緑地課の看板が立っており、2種類ありまして、一つは環境省と警察庁ポスターが合わさった看板です。もう一つは、我孫子警察と公園緑地課とを合せた看板で、またもう一つありまして、公園緑地課の看板なのですが、この看板の言葉が不適切であると思います。

行政が作るような内容の看板ではないと思いますので、もうちょっと丁寧な内容にさせていただきたいと思います。さくらプロジェクト、水の館でお客様をお迎えするにあたり、この看板では問題があると私は思います。早急な対応を、よろしくお願いいたします。

市長：ご指摘、誠にありがとうございます。遊歩道には桜だけではなく、いろんな種類の木があります。柏の方の遊歩道よりは、我孫子の方が歴史は長いものですから、樹木が育って、根っこが張り出し遊歩道を壊してきております。

毎年、修繕を行っても、他の箇所が壊れるなど、追いかけてこになっている状況です。かといって、根っこを切ってしまうと枯れてしまい、強風で倒れるなど危険な状態になります。木の状態によっては、伐採も考えなければならないと思います。

また、木にも寿命がありますので、必ず伐採しなければならない時期はきます。

そのような状況になった時には、少し樹木の間隔をとって植樹しようと考えております。

当然、私も職員も、あの遊歩道を大切にしていきたいので、遊歩道の改修工事をしながら、樹木の管理の仕方を大事にしていきたいです。一番大切なことは、遊歩道を歩く方々が安全に楽しく、歩けるようにしておかなければならないという事ですので、安全性を最優先にして管理してまいります。なお、職員が全ての場所を毎日管理することは出来ませんので、お気づきの場合は、公園緑地課か又は秘書広報課の方にご連絡をいただければ、幸いです。情報のご提供、ありがとうございました。

看板につきましては、注意勧告の看板を設置した方がよいのではないかと、いろんな所でご意見を頂戴しておりますが、残念ながら、あれもダメ、これもダメという看板が沢山あると、我孫子市民は、こんなにルールを守らないのかと思われてしまいます。観光等で我孫子市を訪れた場合にも、見苦しいと思います。看板につきましては、まず、現地確認をして対応いたします。貴重なご意見ありがとうございました。

市民: 前は、並木地区の施設の前が暗いということで、早速の対応をしていただき、誠にありがとうございました。水の館についてです。来年オープンするということですが、柏市の道の駅でも、レストランがオープンするそうです。地産地消ということで、地元の農作物を使ったレストランということだそうですので、しっかりと対応をしなければ、お客さんをとられてしまうことになります。

つきましては、小売りの競争原理は、地域の方に指示されるかということにつきると思います。

その結果、勝ち組と負け組になってしまいます。せっかく無料で譲り受けた施設ですので、それをうまく活用して、我孫子市の財源の補てんになるように努力をしていただきたいと思います。ですから、我孫子市民が水の館で買い物をしないという理由があれば、それを改善していくということが、大切だと思います。

頑張ってください。応援いたします。

環境経済部長：貴重なご意見、ありがとうございます。直売所ということで、小売りするだけではなく、軽食をとることができる場所も提供させていただく訳ですが、これについては、現在あるアンテナショップの直売所の面積の2.5倍になるということです。今までは、東西に長い我孫子の地形の西側に位置していたわけですが、中央に位置して、皆様にご利用いただければと考えまして、工事を行っております。ここを農家の方が組織した会社が運用して、地元でできた野菜を安全・安心に提供していくことを考えております。先ほど、お話にでた対岸の道の駅の件についても新たな展開がされると新聞にも掲載されておりましたが、同じように手賀沼周辺での相乗効果という点で、柏市との連携を行い、お互いに情報交換をしながら、付加価値を高めて、手賀沼周辺で賑わいが生まれればと思います。更に手賀沼は、我孫子駅から近い訳ですから、観光の賑わいも担うようになればと思います。軽食の話しでは、初めて運営をする訳ですので、メニューについてもこれから、検討していくことになります。皆様、来春をぜひ楽しみにして頂きたいと思います。

市民：市のホームページに農業データというものがあります。農業人口のデータと農産物の生産データが掲載されておりますが、農産物の生産額が未だに平成18年のデータになっています。担当課に聞いたところ、これは県のデータという回答でした。今後、農家やあびベジのような生産者がどのデータを信じれば良いのか、困惑してしまいます。最新データを再度、担当課にて集めていただいて、お示しいただきたいと考えています。よろしく願いいたします。

環境経済部長：今おっしゃられたとおり、平成18年度まで千葉県でデータをとってありまして、それ以降、数値を出しておりません。その段階での数値が残っているという状況です。製造業については、調査額が出ております。しかし、10年経っていることから、今後、数字を掲載するか、額を掲載するかは、協議して皆様にお示しできるようにしていきたいと考えております。これからは、基準となる数値になると思いますので、18年度を基準とした数値と対比してのものになるかと思いますが、工夫して掲載したいと思っております。

市民：我孫子市で何が一番必要かと言うと、若い力だと思っております。この我孫子市の事業の説明の中で、若い世代の定住化への取組ですとかありますが、結論を言わせてもらおうと、地域活性化の為にコミュニティ活性化会議というのがありますが、あんまりはっきりしていない部分があると思います。活性化、活性化と言って、何かや

って下さいと言っても、何をしたらよいのか、疑問があります。私たちの自治会では、もっと議論して行こうと言っています。また、NHKでもやっていましたが、今このような問題が発生しております。

それは、2020年に東京の人口が減るという事です。NHKでは夕張の例を挙げて自治体が撤収するという事態になったとあります。草加市、八潮市、越谷市等ではパネルディスカッションをして、このような問題をどうするのか検討しているようです。

こういった事も考えていただき、市の重点施策にも組み入れていってほしいと思います。このような事を地域の方々と共通認識してもらって、大きくして行く事が必要だと思います。市長さんがイベントにきて、自治会の方々もお話をして、皆が地域の事を考えて進めているとは思いますが、何か進行を進めるだけのようで、中身が上手く議論されていないように思えます。是非、若い人の定住化対策と少子化対策への取組み等を、地域で議論して頂きたいと思います。

市民生活部長：我孫子市では、25年に地域コミュニティ活性化基本方針を定めました。これはどのような事かと言いますと、基本構想の見直しの中で、どうも地域がバラバラになっているようだ、人口も減少していく中で、もっと地域内が密接になっていかなければならない、という事を背景に作られました。その一つのしくみとしては、今、我孫子では地域会議というものを、11のコミュニティエリアを利用して作っていくことになりました。その趣旨は、組織をつくるのではなく、その地域に住んでいる様々な団体、ベースはやはり自治会になりますが、まちづくり協議会や民生委員、地区社協、防犯協議会、防災組織というような、いろんな組織の方が、いろんな目的の基に日々活動している中、そのような方々が一同に会する場がなかったことで、違う立場の人たちがどのように思っているのか、考えているのか、お互いに理解し合って、地域をどのように活性化させていくのか、自分達がそれぞれ、どのような役割をもっていけば、地域が良くなっていくのか、そういった事を気軽に話し合える場所をつくって行こうということです。名称はもう少しやわらかい名前で良いのではと思います。

これまで、市内4ヶ所のモデル地区で始めまして、久寺家地区、天王台南北、それと新木地区、そして今年度は我孫子の北側の地区でも始めようとしております。出来れば、平成30年までには、一通りの地区でそういった場所を設けていきたい

と考えております。その際には、お声掛けをさせていただきますので、ぜひ、参加して頂きたいと思っております。やはり、自治会がベースになっていますので、自治会さんが積極的に参加していただかないと、前に進むのは難しいと考えています。

ただ、自治会さんは、毎年会長さんが変わってしまうところが多いものですから、弊害もありますが、地域の問題を皆様で考えていただきたく思います。地域の問題は地域で、難しい場合は、市役所と協議してという形になっていくと思っておりますので、ぜひ、皆様、ご協力の程よろしくお願いいたします。

市長：我孫子市がやっているものは、例えば、若者への支援策、子育て世代への支援策、若者の定住化策、これは、市の若手職員のプロジェクトチームが考えてきたものです。50代の職員が、子育て支援を考えるよりも、その世代に近い職員が考えた方が、今、若い人はどう思っているのか、何をしてほしいのか等、より具体的な案がでてくるからです。このような取り組みを3年前から行っているという状況です。

市は、悩みを抱えているその年代に対応していかないと役に立たなくなります。例えば、持ち家を持った場合には、30万円補助しようと言った時に、高齢者の方はもっと上げた方が良くと言っていました。若者のアンケートをとりましたら、ちょうど良いというのが、圧倒的にありました。ですから、ただ、お金をばらまけば良いのかということではなく、待機児童がゼロであるということなど、住み易さや働きやすさを考えていかなければならないということだと思っております。若い人たちは、直接ご自身の生活に関係があることであれば、積極的に参加してくれるはずです。ですから、地域会議などでも、ご自分の住んでいる地域の事などであれば、積極的に協力してくれると思っております。

そのような中で、様々な方々と意見交換をして、個々の地域の考えや問題点などを各地域の自治会と共有して、取り組んでいただければと思っております。なお、市といえども市で行うことや市と共に行うことができるものなど、多々出てくると思っておりますので、お手伝いしていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

市民：結婚する世代の人達が重要です。魅力ある自治会であれば、自治会行事も積極的に参加するのですが、このような部分が市の施策の中に取り組みされていないのではないのでしょうか。少子化、高齢化が進む中で大都市近郊地域とどのように均衡を

保っていくのか、福祉サービス、医療サービスをどのように充実していくのか、若い世代の価値観が多様化しているので、気持ちがつかみづらいところがあります。若い市の職員には、こういったところも加味してこれからも頑張っていたきたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

市長：やはり人口減少が進んでいく地域の事は、皆さん聞いたことがあると思うのですが、可能性として提案したのが、当時の増田元大臣が40歳未満の女性が少ない所を何かしら対策をとらなければ、このまま人口減少が進んでいくという警告を發したと私は理解しています。全国市長会でも増田さんが話された時にもそのように聞いております。ですから、今、このような状況だからこそ、「40歳未満の若い女性達が、住んでもらえるような街」、この部分を市が後押しして行けるようにして行く事が大切だと考えています。

若い職員に聞いても出会う機会がないと言っています。だからこそ、結婚相談事業を社会福祉協議会が市役所の隣で行っておりましたが、もっと回数を増やして、もっと若い人が来やすいようにということで対応しましたが、出会いというのは難しいようです。若い人たちが何を思っているのか等、よく考えながら少しずつ行っていくしかないと思っています。我孫子市も40歳以下の女性が求めるものを提供できるようにニーズ調査をして、自然と我孫子市が住み易いと言っていただけに、これからも検討して参りたいと思えます。

市民：横断歩道等の白線がグレーになっていて、ほとんど見えません。歩行者の安全を守らなければなりませんし、運転者が何処をみているのかわかりませんし、自転車が何処を走ればよいのかわかりません。安心して歩ける街にするために、白線を引いてほしいと思えます。我孫子警察に連絡したところ、優先順位がありますので、ご理解くださいと言われました。白線が引かれていないと大変住みづらい街となります。後田公園あたりのタクシーをプールしてあるところや北近隣センター近くの道路がデコボコしているところがありましたが、市に連絡しましたら、道路課の職員が即、対応して下さいました。ただ、道路の白線に関しては、どうしても遅くなるようです。早急に対応して頂ければと思えますので、よろしくお願ひいたします。

建設部長：歩道や路肩の白線については、2種類ございまして、横断歩道等、交通規制が関係するものについては、先ほどおっしゃられたとおり、警察の管轄です。道路の路肩を標記する線などについては、私共、道路課となります。市内では総距離

500km以上道路がありますので、白線が薄くなっている場所があるのは、事実です。道路課でもパトロールをしておりますが、現地の市民の方からご連絡を頂き、現場にて確認した方が修繕対応が早くなりますので、本日のご指摘の件につきましては、後程、道路課の職員が出席しておりますので、場所をおしえていただければ、と思います。横断歩道については、私共から警察の方にご連絡をいたします。

市長：先日、子ども議会でも指摘されまして、横断歩道や信号につきましては警察が行っているものであります。ただ、残念ながら県の警察の予算が、非常に少ないので、千葉県内で新しく信号を設置できるのは、約600箇所です。この枠も以前から大分減っております。このような状況下では設置をしたくてもなかなか出来ないということで、県議員にもお願いをして、警察の予算をもう少し増やして頂きたい事を伝えていきたいと思っております。ただ、そうすると、何処か予算を削らなければならなくなります。予算は、急に膨らむわけではありません。そうすると優先順位の見直しになるかと思えます。こちらとしても、地元の議員さんと協議をさせて頂きたいと思えます。今も我孫子市では、年に1箇所しか信号設置はできません。うまくいっても2箇所ぐらいになると思えます。このような状況ですので、我孫子市内でも優先順位をつけて設置場所を協議しなければならなくなります。

市民：交通量によって、道路の白線が薄くなるのはわかっていますが、きちんと業者を選定して、技術力の高い業者にて工事をお願いしたいと思えます。市ではきちんと業者選定を行っているのですが、余りにも早く消えてしまうので、そういったところをよろしくお願いいたします。